

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福島県立安達高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒964-0904
福島県二本松市郭内 2-347

E-mail chiba.takashi@fcs.ed.jp

Website https://adachi-h.fcs.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 237 名 女子 331 名 合計 568 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校ではユネスコスクールとして ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) に取り組み、学校活性化を図っている。「復興教育」「国際理解教育」重点を置き活動を行ってきたが、それに付随する各活動も活発化している。以下が主な活動である。

① ESD 復興教育

- ・ 4/19 (水) ESD 説明会 (1 学年)
- ・ 5/3 (水) 全国高校生サミットでの発表@名古屋 (自然科学部)
- ・ 5/17 (水) 「小・中学校の学びと放射線教育」福島大学 岡田努教授 (1 学年)
- ・ 7/15 (土) 民間ユネスコ運動全国大会での発表@仙台国際センター (自然科学部)
- ・ 8/4 (金) 東北地区高校生環境座談会@仙台 (自然科学部)
- ・ 8/5 (土) 環境教育フェスティバルでの発表@三春 (自然科学部)
- ・ 8/11 (金) TEAM ユリカモメ (安達高、福島高、洛南高、兵庫県立北須磨高、京都大) 測定報告会
- ・ 8/26 (土) 有限会社ラドによる霧箱作製ワークショップ (自然科学部)
- ・ 9/2 (土) 未来館フェスティバル@男女共生センターでのブース出展 (自然科学部)
- ・ 9/6 (火) 公開 ESD 発表会 (全学年)
- ・ 10/22 (日) 愛知県ビッグフェスティバル前夜祭にて発表 (自然科学部)
- ・ 11/10 (金) 第 5 回ユネスコスクール東北大会にて研究発表@宮城教育大学 (ESD 発表会優秀班)

- ・ 11/25 (土) サイエンスアゴラにて研究発表@お台場 (自然科学部)
- ・ 12/17 (日) サイエンスキャッスルにて研究発表@岩手大学 (自然科学部)
- ・ 2月 ESD まとめポスターセッション (1 学年) SDGs を各グループでテーマ設定
その他 有志生徒を募り、原発 20km 圏内視察を 7 回実施した。

②国際理解教育

- ・ 7/7 (金) ダートマス大学生来校、交流会 (希望者)
- ・ 7/28~8/7 夏期海外語学研修 in オーストラリア
- ・ 11/7 (火) 地球のステージ (全学年)
- ・ 11/29 (水) JICA 青年海外協力隊出張講座 (1 学年)
- ・ 1/24 (水) 永遠溜 (トワリ)・マリールイズさん講演 (1 学年全員)
- ・ 通年 国際理解に関する講座

③他校との交流

- ・ 6/19 (月) 兵庫県北須磨高校生との被災地巡検、skype 交流
- ・ 8/2~8/3 愛知県高校生 20 名との合同スタディツアー
- ・ 12/6 (水) ~8 (金) JICA グローバルキャンプ宿泊研修【ふたば未来学園との連携事業】
- ・ 京都教育大学附属中学校との連携事業

④地域とのつながり

- ・ 11/11 (土) 道の駅ふくしま東和にて、首都圏向け復興ツアー客へ向けた発表
- ・ 合同スタディツアーにて、食事や休憩所、講師の紹介等の協力をいただいた。

⑤ユネスコサポーターズクラブ

○希望者により毎週木曜日放課後活動

「世界一大きな授業」「40 年後の村」「Food project」「世界の果ての通学路」「伝統とは？」等を実施した。

ここに挙げた取り組み以外にも ESD に関連した事業を多数実施している。ESD の取り組みにより、自らの進路希望を見つめ直した生徒もいる。次年度以降は、これからの世界をより持続可能にするための具体的な指針である SDGs を念頭に置きながら、より多くの生徒達が自ら学びを深め、多角的な視点を獲得し、自己変革を達成できるよう魅力的な活動を進めていきたい。



① 公開 ESD 発表会



② ダートマス大学生交流



③ 北須磨高校との交流



① 自然科学部サイエンスアゴラ

を勉強することになった。作品の中で鈴木さんは当時を振り返り、今回の製作に懸ける思いを語っている。

四人は倉庫で動画を撮る。作を連し原発事故や放射線、放射性物質、放射線を理解できた。多くの人に福島のことを知ってもらいたい。」

鈴木さんは「動画製作」と話している。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(放課後 、 休日)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p>世界一大きな授業(SDGs 4) ペルチェ冷却式高性能霧箱 ユーザーズマニュアル (http://bigbird.riast.osakafu-u.ac.jp/~akiyoshi/)</p>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>本校は学校経営・運営ビジョンにおいて努力目標に「ユネスコスクールとしてESD教育・特別活動・部活動等を充実させ、学校活性化の力とする」と定めている。</p> <p>今年度の重点事項1『進路希望の実現②』で「ESD教育に関連したアクティブラーニング、課題解決型学習に取り組ませます」また3『ESD教育・特別活動の充実①』で「復興教育・国際理解教育を軸としたESD教育を展開します」と明記し、教職員全体に統一目標を明確化させている。</p> <p>それぞれの教員がESDに関連する指導方法を意識して、授業を行っている。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

本校ではユネスコスクール委員会を設置している。教頭、教務主任、進路指導主事、各学年から1名以上、その他事務局メンバーを配置し、全学年を通してESD活動を推進できる体制を整えている。

また、ESD活動に興味関心のある生徒の活動を支えるため、ユネスコサポーターズクラブを発足し、放課後や休日等を利用し個別の展開を促進している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

安達高校の教育活動等に関する評価を教職員、生徒、保護者に実施した。質問項目「本校はESD教育の活性化に積極的に取り組んでいる」で生徒、保護者の約90%が「そう思う・だいたいそう思う」に回答している。教職員は約85%が同様に回答。

課題としては、「ESD活動の活性化により学校行事の精選が必要」「少子化による教員数減少に伴う各活動の困難化」「ESD専門教員の必要性」などが挙げられる。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

ESD活動の報告は主に学校ホームページで行っている。また、行事によって新聞社に取材をお願いして記事にしてもらっている。

ホームページより本校の活動を知った企業や団体からの活動依頼や、学校間交流が実施された。

また、全校生徒が参加するESD発表会は一般公開としており、平成29年度は各教育機関からの参加があった。

各機関から依頼される発表会にて活動成果について口頭・ポスターで発表した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

東北 ESD コンソーシアム、東北地方 ESD 活動支援センターとの連携を図っている。宮城教育大学との連携により、ユネスコスクール東北大会での発表を毎年行っている。

福島大学、京都大学、大阪府立大学、環境創造センターと連携し、自然科学部が行っている研究指導をいただいている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

兵庫県北須磨高等学校との学校間交流（被災地巡検）

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

・地元の行政機関、起業家の方々との連携や協同プロジェクトを実施したことにより、生徒たちが自分たちの住む地域についてより深く学習することができた。

・テーマにより、教科横断的な取り組みを模索する教員が増えてきた。

・全学年による公開 ESD 発表会への取り組みを通して、探求活動に関連する進路を選択し、そのために具体的な計画性を持って進学活動に取り組む生徒が増えた。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400 字程度)

1 学年

【4 月】 ESD 説明会 【5 月】 放射線教育 【7 月】【11 月】 JICA 出前講座
【1 月】 マリールイズさん講演会 【2 月】 ESD ポスターセッション

2 学年

【10 月】 台湾修学旅行 【11 月】 ユネスコスクール東北大会発表

全学年

【7 月】 ダートマス大学生との交流会 【7, 8 月】 オーストラリア海外研修
【9 月】 公開 ESD 発表会 【12 月】 JICA グローバルキャンプ

その他

大学教授の講演会、地域の方々との交流、ユネスコサポーターズクラブ